

2010年度大学入試センター試験 解説〈日本史B〉

第1問 古代から近代までの武士社会と思想 (配点 12)

問1 1 ②が正しい。

I 源頼信は、1028（長元元）年に房総地方で起こった平忠常の乱を平定し、源氏が東国に進出する基礎を作った。

III 源頼義は、前九年合戦（1051～1062）で安倍頼時・貞任らを討ち、源氏の東国における勢力を固めた。

II 源義朝は、1156（保元元）年の保元の乱で後白河天皇側について功績をあげたが、乱後は平清盛と対立して1159（平治元）年に平治の乱を起こし敗れた。

問2 2 ④が正しい。

鎌倉幕府の将軍は、主従関係を結んだ御家人に対して、先祖伝来の所領の支配を保障する（本領安堵）とともに、戦功のあった者に新たに所領を与える（新恩給与）などの御恩をほどこした。これに対して御家人は、戦時においては戦闘に参加する軍役、平時には朝廷を警護する京都大番役や幕府を警護する鎌倉番役などの番役に勤仕するなど、奉公にはげんだ。こうした土地の給与を通じて、主人と従者が御恩と奉公の関係によって結ばれる制度を封建制度という。

aの御恩の内容を「俸禄の米を支給することが主である」とする記述は誤り。cの合戦や大番役は国ごとに守護が御家人を動員するものであるから、「国司が荘園領主に賦課していた」とする記述は誤り。

問3 3 ③が正しい。

戦国大名は、領国の平和を維持させることを目的に喧嘩両成敗を定め、家臣相互の紛争を私闘で解決することを禁じ、すべての紛争の解決を戦国大名による裁判に委ねさせた。

①の「天領」は江戸幕府の直轄領、②の「惣掟」は惣村の規約であるから、いずれの記述も戦国大名による武士統制強化策とは無関係。④の「石高」は貫高の誤り。

問4 4 ④が正しい。

鎌倉時代の武士は、武芸の修練を重視し、流鏑馬・犬追物・笠懸などの射芸の訓練に励んで戦闘に備えた。

①のように家臣や商工業者を城下に集住させて城下町を中心とした領国を形成したのは戦国大名であるから誤り。②のような所領相続（嫡子単独相続）は鎌倉時代を通しての原則ではないので誤り。鎌倉時代の武士の所領相続は、分割相続が原則であったが、鎌倉時代中期以降に嫡子単独相続へと変化した。③の「寄親・寄子制」は戦国大名の軍事制度であるから誤り。

問5 ①が誤り。

江戸幕府は、封建社会を維持するための教学として、上下の身分秩序を重視した朱子学を重んじた。しかし、儒学者のなかには、朱子学を批判して独自の立場を明確にする者もあらわれ、とくに陽明学は「知行合一」の立場で正しい立場を実践によって改めていこうとする革新性を持っていた。陽明学の祖である中江藤樹に学んだ熊沢蕃山は、陽明学の実践を岡山藩の藩政改革に生かしたが、著書『大学或問』で幕政を批判したとして下総古河に幽閉された。

問6 ①が正しい。

X 陸羯南は、はじめ官吏となったが、条約改正交渉をめぐる欧化主義政策に反対して退官した。1889（明治22）年には新聞『日本』を創刊し、国民の統一と国家の独立を主張した国民主義を唱えた。

Y 高山樗牛は、東京帝大在学中に執筆した『滝口入道』が読売新聞の懸賞に当選し、その後、雑誌『太陽』の主幹として国家主義的な日本主義を唱えた。

第2問 古代の政治と文化（配点 18）

問1 ④が正しい。

ア 587年、大臣蘇我馬子は、王族や諸豪族を率いて物部守屋を攻め滅ぼし、崇峻天皇を擁立して権勢を強めた。

イ 物部守屋滅亡後、厩戸王（聖徳太子）は現在の大阪市に四天王寺を建立し、蘇我馬子は現在の奈良県明日香村に法興寺（飛鳥寺）を建立した。

問2 ①が正しい。

摂政厩戸王は、推古天皇のもとで大臣蘇我馬子とともに共同して国政にあたり、王権に権力を集中させるとともに、朝鮮諸国に対する政治的な優位性を確立するための諸政策を展開した。603年に定められた冠位十二階の制は、個人の才能や功績に応じて冠位を授けることを定めたもので、その結果、氏姓制度による門閥主義の弊害が打破され、豪族は官僚制的な政治集団に組み込まれることとなった。

②は倭の五王による中国南朝への遣使に関する記述であるから誤り。厩戸王は遣隋使派遣の際に中国皇帝から冊封を受けない姿勢をとり、対等外交を求めている。③は3世紀の邪馬台国、④は8世紀初めに成立した『古事記』に関する記述であるから、いずれも厩戸王とは無関係。

問3 ④が誤り。

「大連の奴の半ばと宅とを分けて、大寺（四天王寺）の奴・田荘とす」と史料にあるから、読みとりができれば解答にたどりつく。奴は豪族に家内奴隷として使役された隷属民、田荘は豪族の私有地であるから、四天王寺が人と土地を所有していたことがわかる。よって④の「人や土地を所有することが禁止されていた」とする記述は誤り。

問4 ③が誤り。

檢非違使は、9世紀前半の嵯峨天皇の時代に置かれた令外官の1つで、主に京内の治安維持にあたった。のちには訴訟や裁判も扱うようになって、令制下の刑部省・弾正台・京職などの職務を吸収して強大な権力を誇った。滝口の武士は、宇多天皇の寛平年間（9世紀末）に設置され、宮中の警護にあたった。よって「滝口の武士をやめて、新たに檢非違使がおかれた」とする記述は、時期が逆であり、また両者に因果関係はないので誤り。

問5 ④が正しい。

b・d 866（貞観8）年、平安京の応天門が炎上する事件が発生し、その経過は12世紀に成立した『伴大納言絵巻』に詳しく描かれている。当初、大納言伴善男は、この炎上を左大臣源信の所為と讒言したが、太政大臣藤原良房の工作によって信は無実となった。のち事件は、真犯人と断定された善男が伊豆に流され、共謀者として紀豊城らも流罪に処されているが、真相は定かでない。この事件の結果、伴・紀両氏が没落する一方で、良房は事件後に正式に摂政に就任し、藤原北家の隆盛が顕著になった。

aの源高明が藤原氏の陰謀で大宰府に左遷されたのは安和の変（969）、cの瓦葺は図版の朱雀門からも読みとることができ、また瓦葺は宮殿建築にも広く普及していた。

問6 ⑤が正しい。

Ⅲ 嵯峨天皇は、810（弘仁元）年、平城太上天皇の変（薬子の变）に先んじて朝廷の機密保持機関として藏人所を設置し、藤原冬嗣・巨勢野足を藏人頭に任じて重要文書を扱わせた。

I 969（安和2）年、藤原氏の陰謀によって醍醐天皇の子で左大臣源高明が大宰府に左遷されると、藤原氏北家の地位は安定し、この安和の変以後摂政と関白が常置されることになった。

Ⅱ 白河天皇は、1086（応徳3）年、幼少の堀河天皇に譲位して上皇（院）になると、天皇を後見しながら政治を掌握する院政を行なうようになった。院政のもとでは、院庁から出された文書である院庁下文や、上皇の命令を伝える院宣が権威をもつようになり、荘園の認可など国政にしだいに効力をもつようになった。

第3問 中世の文化・政治・社会 (配点 18)

問1 13 ③が正しい。

ア 日蓮は、「南無妙法蓮華經」の題目を唱えることによるのみ救われると説き、厳しく他宗を攻撃した。『立正安国論』を鎌倉幕府に献上して国難の到来を予言すると、流罪になるなど為政者の迫害を受けたが、のちに許されて布教活動を続け、地方武士や都市商人らに多くの信徒を得るようになった。

イ 禅宗では、弟子が一人前になると、師は人の師になる証明として肖像画に自賛を書いて弟子に与えた。この肖像画を頂相という。

問2 14 ②が正しい。

法然は、阿弥陀仏を信じ、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば極楽往生できると説いた。この専修念仏を説いて浄土宗を開いたのは1175(安元元)年のこととされる。他力易行の法然の教えは武士や民衆の心をとらえ、九条兼実ら貴族の帰依も受けたが、旧仏教側の迫害を受けて1207(承元元)年には讃岐に配流されている。のち許されて京都に帰り、1212(建暦2)年に没した。法然が活躍した時期の政治状況としては、源義仲が入京を果たした1183(寿永2)年ころである。

問3 15 ②が正しい。

源平争乱時に焼失した東大寺の再建は、僧侶の重源が宋から取り入れた大仏様とよばれる手法で進められ、この建築様式で東大寺南大門は完成をみた。大仏様は、天竺様ともよばれ、大陸風の力強さにあふれた雄大豪放な構成美を有している。

問4 16 ④が正しい。

ウ 後醍醐天皇は、醍醐・村上天皇の時代を理想とし、建武の新政とよばれる天皇親政を復活させた。すべての土地所有の確認は天皇の命令文書である綸旨を必要とする法を定めるなど、天皇権限の強化を推し進めたが、新政権の土地政策が武士社会の慣習を無視したものが多かったこともあって、武士の反発を買う結果をまねいた。

エ 北畠親房は、常陸国小田城を根拠地に南朝の政治・軍事の中心的存在として活躍し、城中で『神皇正統記』を著して南朝の正統性を説いた。

問5 17 ④が正しい。

- Ⅱ 第3代将軍足利義満は、将軍の権威を確立するために有力守護の統制にのりだし、1391（明徳2）年に六分一殿と称された山名氏清を滅ぼし（明徳の乱）、1399（応永6）年には周防など6か国の守護を兼任していた大内義弘を討った（応永の乱）。
- Ⅲ 1441（嘉吉元）年、播磨国の守護赤松満祐が専制政治を展開していた第6代将軍足利義教を暗殺すると、将軍の権威は地に落ちた（嘉吉の乱）。
- I 1467（応仁元）年、将軍家の継嗣争いに管領家の家督争いが絡んで、天下を二分する応仁の乱がおよそ10年間の長期にわたってつづいた。全国の武士は、管領細川勝元の東軍と四職の山名持豊の西軍に分かれて戦い、京都は焦土と化した。この乱の結果、室町幕府の権威は失墜し、荘園制の崩壊は一層促進されることとなった。

問6 18 ①が正しい。

- X 日明貿易で栄えた博多は、12人の年行司（年行事）とよばれる豪商の合議によって市政が運営され、自治都市としての性格を有していた。
- Y 越前国の城下町である一乗谷は、朝倉氏の本拠地として繁栄し、朝倉氏の家訓「朝倉孝景条々」にも家臣団の城下集住を命じた箇条がみられる。

第4問 近世の政治と社会（配点 17）

問1 19 ①が正しい。

- ア 第4代将軍徳川家綱は、1651（慶安4）年に起こった慶安の変（由井〔比〕正雪の乱）を契機に文治政治への転換をはかり、末期養子の禁を緩和して大名家の断絶を減らすとともに、秩序に抗して乱暴を働くかぶき者に対する取締りを強化した。
- イ 第5代将軍徳川綱吉は、1687（貞享4）年以降、生類憐みの令を出し続けて殺生を禁じた。

この法令による取締まりは厳しく、民衆の迷惑は計り知れないものがあったが、その一方で、野犬の横行が減る効果をもつとともに、殺生を避ける風潮が次第に社会に浸透することとなった。

問2 20 ③が正しい。

- X 新井白石は、朝鮮からの国書にそれまで「日本国大君」と記された将軍の呼称を「日本国王」と改めさせ、日本を代表する者としての将軍の地位を明確化しようとした。よって将軍の称号を「日本国大君」と改めさせたとする記述は誤り。
- Y 新井白石は、幼少・短命な将軍が続くなか、天皇の権威を利用して将軍の地位を高めようと考えた。当時の宮家は3家しかなく、多くの皇子は出家して門跡寺院に入っていたが、幕府はそうした状態を改善するために、新たに閑院宮家を創設して天皇家との協調関係を築いた。

問3 21 ④が正しい。

- b 尾形光琳は、俵屋宗達の画風を学んで豪快な装飾画風を大成し、その系統は琳派とよばれた。図版は、光琳の代表作の1つである『燕子花図屏風』である。
- d 図版乙は、人形浄瑠璃が上演されている様子を描いている。義太夫節とよばれた竹本義太夫の語りにあわせて、人形遣いの名手辰松八郎兵衛が演出している場面として知られる。

問4 22 ④が正しい。

- ウ 1842（天保13）年、アヘン戦争で清国がイギリスに敗れて南京条約を結んだという情報が伝わると、江戸幕府は異国船打払令を緩和して薪水給与令を発し、列強諸国との衝突を避ける措置を講じた。
- エ ペリー来航後、老中阿部正弘は安政の改革とよばれる幕政改革に着手し、大船建造の禁を解いたほか、江戸湾に台場を築いた。また、長崎に海軍伝習所、江戸に講武所を設けて軍事教育を進め、海外情報の収集や人材育成にもつとめた。

問5 23 ②が正しい。

- I 新井白石は、日本に潜入したイタリア人宣教師シドッチを尋問し、欧米事情の取調書である『西洋紀聞』や世界地理書である『采覧異言』をまとめた。その成立は、白石が正徳の治を行っていた1715年前後のこととされる。
- III 享保の改革を実施した第8代将軍徳川吉宗は、殖産興業のための実学を重視し、1720（享保5）年にはキリスト教と関係のない漢訳洋書の輸入を認めた。
- II 第11代将軍徳川家斉は、1811（文化8）年、天文方高橋景保の建議を受けて外交文書の翻訳局として蛮書和解御用を置いた。

問6 24 ①が正しい。

老中安藤信正は、孝明天皇の妹和宮を第14代将軍徳川家茂に降嫁させるなどして公武合体策を進めたが、これに反対する尊王攘夷論者の襲撃を受けた（坂下門外の変）。その結果、幕府の公武合体策は挫折したが、薩摩藩は独自の立場から運動を進め、藩主の父島津久光は勅使を奉じて江戸に下り、幕政改革を要求した。幕府はやむなくこれに応じ、一橋慶喜を将軍後見職に任じるなどの人材登用を行ったほか、参勤交代の緩和や西洋式軍制の採用に着手した（文久の改革）。

②の「将軍後見職」に任じられたのは徳川斉昭ではなく一橋慶喜、③の「上知令」を実施しようとしたのは天保の改革を行った老中水野忠邦、④の「参勤交代」は文久の改革で緩和されているから、いずれの記述も誤り。

第5問 明治前期の産業・経済 (配点 12)

問1 25 ④が正しい。

ア・イ 明治政府は、殖産興業政策の費用や西南戦争の戦費を調達するために、不換紙幣を乱発した。また、国立銀行条例の改正にともなって兌換義務がなくなると、国立銀行の設立が相次いだため、不換銀行券の発行も急増した。その結果、紙幣の価値が下落し、激しいインフレーションが発生して物価の高騰をまねくこととなった。

問2 26 ③が誤り。

明治政府は、1873(明治6)年、警察・地方行政などを所管する官庁として内務省を設置した。内閣制度創設以降は対民衆行政のすべてを管轄し、治安立法を適用しながら民衆運動を弾圧するなど、国民生活を統制した。なお、内務省は、第二次世界大戦後の1947(昭和22)年にGHQによって解体されている。初代内務卿に就任したのは大久保利通であるから、③の「黒田清隆」とする記述は誤り。

問3 27 ①が正しい。

- a 臥雲辰致が発明した綿紡績機は、1877(明治10)年に開催された第1回内国勸業博覧会に出展され、「ガラ紡」という名で全国に普及したが、機械紡績の発達によって1880年代末頃から衰微した。
- c 明治政府は、殖産興業政策の一環として内国勸業博覧会を開催し、産業技術の発展をうながした。
- bの「茶」は明治20年代まで生糸に次ぐ重要輸出品、dの「官営の製鉄所」(＝八幡製鉄所)は日清戦争後の賠償金によって創設されているから、いずれの記述も誤り。

問4 28 ⑤が正しい。

- Ⅲ 土佐藩出身の岩崎弥太郎は、藩船の払下げなどを受けて海運業に進出し、九十九商會を設立した。1874(明治7)年の台湾出兵の際には軍事輸送を請負い、以降は政府の保護を受けて海運に独占的地位を築いた。なお、九十九商會は1875(明治8)年に郵便汽船三菱会社に改称され、政府系の共同運輸会社と激しい競争を演じている(1885年に両者は合併して日本郵船会社に発展)。
- I 1881(明治14)年、開拓長官黒田清隆は、開拓使の官有物を政商五代友厚に安価で払下げようとした。こうした動きに対して、参議大隈重信や自由民権派は藩閥政府の弊害だと批判し、払下げの中止を求めた。
- Ⅱ 1932(昭和7)年、井上日召率いる血盟団は、一人一殺主義を唱え、前蔵相井上準之助と三井合名理事長団琢磨を暗殺した。

第6問 渋沢栄一とその孫敬三を題材にした近現代史 (配点 23)

問1 29 ④が正しい。

- ア 渋沢栄一は、1872(明治5)年に制定された国立銀行条例の起草に尽力し、東京に設立された第一国立銀行の頭取に就任するなど、近代的金融制度の導入に取り組んだ。
- イ 渋沢栄一は、1882(明治15)年に華族らの出資を受けて大阪紡績会社を設立し、イギリスの紡績機械や蒸気力を利用するなど、紡績業発展の基礎を築いた。

問2 30 ③が正しい。

第三次伊藤博文内閣が超然主義を主張すると、自由党と進歩党は合同して憲政党を結成し、衆議院に絶対多数を誇る政党が出現した。伊藤内閣が議会運営の見通しを失って政権を投げ出すと、1898(明治31)年、憲政党を基盤とした最初の政党内閣として第一次大隈重信内閣(内相は板垣退助)が成立した。

①は第二議会における第一次松方正義内閣の衆議院解散後の動向、②は大隈が黒田清隆内閣の外相として行った条約改正交渉、④は第二次大隈重信内閣の時の第一次世界大戦参戦に関する記述であるから、いずれも誤り。

問3 31 ④が正しい。

- X 日本鉄道会社は、1881(明治14)年に華族らの金禄公債を資本に設立され、民間の鉄道会社の先駆となった。1891(明治24)年には上野・青森間を全通させるなど良好な営業成績を保ったが、1906(明治39)年に制定された鉄道国有法によって国有化された。
- Y 前島密は、1871(明治4)年に駅通頭として近代的郵便制度の創設に着手し、翌々年には全国均一料金や郵便切手を採用するなどその基礎を確立した。

問4 32 ②が正しい。

- I 1877(明治10)年、立志社の片岡健吉らが国会開設にくわえて地租軽減などを求めた立志社建白を政府に提出すると、地租改正に反対していた豪農層も民権運動に参加するようになった。
- III 1881(明治14)年、伊藤博文は開拓使官有物の払下げを中止するとともに、反対派の参議大隈重信らを罷免して明治十四年の政変が起こった。その一方で伊藤ら政府は国会開設の勅諭を發布して懐柔策をとった。
- II 1889(明治22)年、衆議院議員選挙法が公布され、選挙人資格が直接国税15円以上を納入する満25歳以上の男子と規定された。

問5 33 ③が正しい。

日本政府は、二十一条の要求以来悪化していた対米関係の調整をはかり、第一次世界大戦中の1917（大正6）年に石井・ランシング協定に調印した。この協定によって、アメリカは日本の中国における特殊権益を認め、また、両国は中国の領土保全・門戸開放・機械均等などの原則を確認しあつた。

①は1932（昭和7）年の五・一五事件後に成立した斎藤実内閣の時、②は1900（明治33）年に軍部大臣現役武官制を法制化した第二次山県有朋内閣の時、④の婦人参政権が認められたのは1945（昭和20）年12月の衆議院議員選挙法改正時のことであるから、いずれも第一次世界大戦期における日本の政治・外交事項に該当しない。

問6 34 ①が正しい。

a 表をみると、満州事変が勃発した1931（昭和6）年を境にして、鉄鋼（粗鋼）生産量の指数は増加しはじめているが、民営工場の労働者の実収賃金はほぼ横ばい状態にとどまっていることがわかる。

c 表をみると、昭和恐慌が発生した1930（昭和5）年には農産物生産価格が下落していることがわかる。

問7 35 ⑤が正しい。

Ⅲ 1953（昭和28）年、NHKがテレビ放送を開始すると、白黒テレビの販売も始まり、テレビは文化を伝達する媒体として家庭内に浸透していった。

I 1972（昭和47）年、田中角栄内閣は、「列島改造」政策を打ち出し、太平洋ベルト地帯中心の産業を地方都市に分散させ、それらを新幹線と高速道路で結ぶことを提唱した。

Ⅲ 1964（昭和39）年、東京オリンピックの開催にそなえて、東海道新幹線（東京・新大阪間）が開通され、高速道路網も整備された。

問8 36 ③が誤り。

経済学者河上肇は、マルクス主義の研究を進めて盛んな著述活動を続け、1917（大正6）年には『貧乏物語』を著して貧乏の根絶は奢侈の廃止によって成立すると説いた。よって河上が「民俗学の研究を発展させた」とする記述は誤り。